

赤ちゃんをおんぶしたお母さん達が、にこにこ嬉しそうに衣類の山をひっくり返し、この冬着せるお気に入りの洋服を見つけて「助かります～！」とお買い上げ。

掘り出し物を探すのもとっても楽しみです。そして他のママと話しながら会えるのは、またうれしいです。ほっと館の先生とも話せるので楽しみです。いろいろ買い物もしますが、話しに来ています。

子どもを生んで子育てが大変なところに母が認知症になりました。子育てと介護と両方がとても大変です。でもそういうことをママ友には話したことはありませんでした。ここで話している自分にびっくりしました。

ご夫婦で3ヶ月の赤ちゃんを連れてきていました。子育てのことがわからないと言いつつ、色々話をしながら長居をしてくださいました。赤ちゃん服も2,3、購入されお帰りになりました。「また来月来ますね」と。



おたより

代表理事 ごあいさつ	P1
ノーバディズ・パーフェクト部門代表 ノーバディズ・パーフェクトプログラムとのこれまで	P1
レイノウ・ジャパン代表 15年の節目にあたって 子どもと親のこころによりそい、向き合うために	P2
シルバーライニング プロジェクト代表 「大津市市民と会津若松市民との共同」	P3
インフォメーション 子ども家庭リソースセンターからのお知らせ	P4

インフォメーション

「 information 」 子ども家庭リソースセンターからのお知らせ



2014年度スケジュール

- NPファシリテーター養成講座 通常講座 (年4回)
 - 第3期 2014年11月21(金), 22(土), 23(日), 24(月祝)日 福川 須美 受講生募集中
 - 第4期 2015年2月21(土), 22(日), 28(土), 3月1(日)日 伊志嶺 美津子 受講生募集中
 - ※時間は各期とも、前半2日間で9:30~16:30、後半2日間で9:30~17:00。会場は子ども家庭リソースセンター。
 - 受講料70,000円(テキスト代2,000円および教材費は別)。お申し込みはCFRC事務局まで。
- NPアフタープログラム (年2回)
 - 第2回 2015年1月18日(日) 永田 陽子 受講生募集中
 - ※時間は、フォローアップ研修 9:30~12:30、ステップアップ研修 13:30~16:30。会場は子ども家庭リソースセンター。
 - 受講料3,000円
 - ※NPプログラム実施にブランク(~2年間)のある方は、特にご受講をおすすめします。お申し込みはCFRC事務局まで。
- トポスの会 (年4回) 当センターのNPファシリテーター養成講座修了生は、どなたでも参加できます。
 - 第3回2014年12月14日(日) 第4回2015年3月8日(日)
 - ※時間は各回とも、13:00~16:00 会場は、子ども家庭リソースセンター。
 - ※トポスの会にご参加希望の方、また、ご新規入会希望の方は、CFRC事務局まで。

寄付のお願い

被災児の心のサポートプログラム実施のために、ぬいぐるみや材料費、被災地へ出向く交通費等が必要です。皆さまからのご援助をお願いいたします。

<振り込み先> ゆうちょ銀行にある振り込み用紙から振り込みが可能です。

口座番号・番号 00130-4-651522 加入者名: NPO子ども家庭リソースセンター

~ ご質問、お問い合わせ等は、下記のCFRC事務局まで ~

NPO法人 子ども家庭リソースセンター (CFRC)

- ※移転しました。2014年4月1日より下記の住所、電話番号になります。
- 所在地 〒114-0002 東京都北区王子 2-18-12 ドムス王子 1階
- TEL/FAX 03-6755-2855 ○E-mail info@kodomokatei.com
- URL http://kodomokatei.com/
- 交通機関 JR線「王子駅」下車 北口から徒歩 8分
東京メトロ南北線「王子駅」下車 5番出口から徒歩 7分
都電荒川線「王子駅」下車 徒歩 10分

○編集後記 今、国内、国外を問わず、自然災害、悲惨な事故あるいは凶悪犯罪事件がしばしば起こり、心穏やかではられません。また将来に対して行き詰まっている若者が少なくないようですが、希望を失わない子どもたちを育てる予防的リソースの必要性を強く感じます。(S)

編集: NPO法人子ども家庭リソースセンター
発行: NPO法人子ども家庭リソースセンター
発行日: 2014年10月20日



ノーバディズ・パーフェクトプログラムとのこれまで

NP 部門代表 伊志嶺 美津子

ノーバディズ・パーフェクト (NP) プログラムは、1980年代にカナダ東部4州が共同開発して連邦政府が全国に広めたものです。1992年、トロント郊外の保健所で紹介されたのが私たちのNPとの出会いでした。オンタリオ州では保健師たちが訓練されてファシリテーターとして実践を始めていたのです。日本では、私たちとカナダ研究を共にしてきた小出まみさんがその著書で紹介して知られるようになりました。その後95年にテキストを入手して日本に持ち帰り学ぶうちに、その精神にふれてぜひ日本の親たちに伝えたいと思うようになりました。その後紆余曲折がありましたが、カナダ政府からの許可を得て2002年にテキストの日本語版をドメス出版より刊行することができました。私たちはファシリテーター資格を2000年に現地で取得、2004年にトレーナー資格を得てNP普及活動を行って来ました。

日本で唯一の資格認定機関である NP ジャパンが設立されたのは 2004 年ですが、以来、CFRC では 508 名の認定ファシリテーターとの 12 名（実働は 8 名）の認定トレーナーを輩出してきました。13 年度に実施されたプログラム数は、CFRC で 138、NPJ 全体で 497 で、ほぼ全国で実施されるようになりました。

NP プログラムは、就学前の子どもを持つ親同士が 10 人ほどのグループになって、互いの価値観を尊重しつつ日ごろの悩みや課題について話しあい、自分にとって最善のやり方を学びとれる機会を提供するものです。子どもから離れて大人同士でゆっくり話せるよう、別室で子どもを保育することになっています。これを毎週 1 回、6 回から 8 回続けるうちに、親同士がつながって支え合える関係ができてきますが、これもプログラムの狙いになっています。

参加者からは「本音で話せた」「自信が持てるようになった」「子どもを見る目が変わった」「ママ友を越えたマイ友ができた」などの声が聞かれます。親が明るく主体的になり、親としての自信と力をつけていくプログラムで、子どもに良い影響をもたらすことはもちろん、それに伴走するファシリテーターにもやりがいをもたらすことが多く報告されています。NP 部門ではファシリテーターとトレーナーの皆さんと連携して、このプログラムを少しでも多くの方々に届けられるよう努めていきたいと思っています。



来年度 CFRC NP ファシリテーター交流会のお知らせ
日時 2015 年 6 月 14 日(日) 14:00~16:30
場所 北とびあ 14 階 スカイホール(東京都北区 王子駅前徒歩 1 分)
共催 子ども家庭リソースセンターとトボスの会
 ※詳細は、企画中です。ご意見をメールやファックス等でお寄せください。(TEL/FAX03-6755-2855)



15 年の節目にあたって - 子どもと親のこころによりそい、向き合うために - レインボウ・ジャパン代表 櫃田 紋子

私たちがレインボウ・プログラムを初めて児童養護施設の子どもたちに実施してから今年で 15 年になります。「レインボウ」に出会った 90 年代の日本は、親による幼児虐待、学校でのいじめや暴力、自殺、低年齢化・深刻化する犯罪など…、こころの問題が大きな社会問題になりつつある中で子どもも大人も苦しんでいました。「学級崩壊」ということばがマスコミで広くいわれるようになったのもこの時代でした。私たちは“あなたは特別、たった一人しかいないあなた あなたの笑顔、あなたの中にある愛、それはあなただけのもの喜ぼう、あなたがあなたであることを…”（レインボウ「ジャーナル」より）というメッセージを子どもたちの心にとどけたいとおもいました。そして子どもと関わりながら日々奮闘している方たちにレインボウの精神やファシリテーターの重要性、ファシリテーションの技法などを伝えたいと考えました。

そこで「子どもと親の心によりそい、向き合うために」というテーマを掲げて、子どもと親を支える「よき相談・援助者のあり方を考える」セミナーやシンポジウムを開催したり、児童養護施設の職員研修や、現任保育関係者のカウンセリング講座などでレインボウを紹介してきました。またレインボウの創始者スージー・マルタさんを招聘し「日本支部」を受託した 2000 年度からは、プログラムを実施できる方を対象に「レインボウ・ファシリテーター養成講座」を開催して認定ファシリテーターの養成をしてきました。これまで講座を受講された大勢の方によって「レインボウ」についての理解はある程度浸透してきているのではないかとおもわれますが、残念ながら「レインボウ・プログラム」と正式名称で呼べる実践は思うように進展していないのが現状です。

ところで今日の社会は子どもにとっても大人にとっても不幸なできごとが毎日のように報じられています。こうした状況を背景にして社会的養護を必要とする子どもが年々増加しています。その子どもたちの多くは被虐待児であるといわれます。私たちはこのプログラムをそうした子どもたちのために役立てたいという思いを込めて、2012 年度に児童養護施設でボランティア（非専門職）が実施するプログラムを「プチ里親レインボウ」と名付けて活動しています。

里親に委託される社会的養護の子どもたちの多くはつらい体験や喪失にあって怒りや悲しみを抱えています。里親との信頼関係を築くには時間がかかりますし、子育てを困難なものにしています。レインボウは参加過程を通して、子どもはファシリテーターとの愛着関係を形成しながら自分を信頼し人を信じる気持ちをもてるようになり、大人もファシリテーターとして子どもと関わりながら子ども理解を深め、自分に向き合い子育てについて考えることができますので双方にとってよい機会を提供することになります。里親になる前や、里親になりたい方への研修プログラムとしても役立つのではないかとおもいます。日本の里親委託率は欧米主要国と比べると非常に低いために様々な制度が講じられていますが、日本では未だ社会的養護についての認識そのものが低いのではないかと実感しています。まずは単発に終わらない



スージー・マルタ著 “シングルシンフォニー”より

このような継続的なプログラムに参加して子どもを知ってもらうことから始めるのが効果的ではないかとおもいます。参加した人たちは里親にならずとも理解者、協力者として地域における社会的養護の担い手へと繋がっていくのではないのでしょうか。

誰の人生にも様々なつらいできごとや喪失は起こります。大切なものを失って深く傷ついたとき、自分自身を信頼し勇気と自信をもって前にすすむには自分だけの力では限界があり、誰かの助けが必要です。地域の子育て環境の中に人と人をつなぐ、問題化するのを防ぐ予防的な仕組みを整えて周知させていくことが大切であるとおもいます。レインボウは参加する人々が共にエンパワーされる予防型プログラムで、喪失の痛みを抱えている幼児から大人まで対象範囲も広く、シルバーライニングのように地域の喪失に対するプログラムもあります。レインボウが地域の人々に利用しやすい社会資源の一つとして認識され、身近に在る活動として地域の中に自然に根づいてほしいと願っています。

15 年の節目にこれまでの活動を省みて、私たちが活動を続けていく意味を改めて考えることができました。初心を忘れずに、レインボウの基本的な枠組みを大切にしつつ、柔軟な発想をもって養成講座のあり方や実施方法などを見直して日本の実態に即した活動をすすめていきたいとおもいます。レインボウに関心をもってくださる熱意ある皆さんと一緒に活動していきたいとおもいます。大勢の皆さまのご参加をよろしく願っています。



「大熊町民と会津若松市民との共同」 シルバーライニング プロジェクト代表 永田 陽子

今年も福島県大熊町の小学 2 年生に 4 年目のスマイルタイムを継続しています。現在、スマイルタイムを実施しているのは、震災当時幼稚園の年少組 3~4 歳の子どもさん達です。私たちは 3 歳頃の記憶は大方忘れていました。当時 3~4 歳だった大熊町の子どもさん達は、震災時、非常に印象的な場面を記憶に留めていました。夜にトラックに乗って移動したことや住んでいた場所のことなどです。寒い季節でしたから不安は一層大きく、おそらくはその感覚は体に沁みこんでいるのでしょう。

今年度のスマイルタイムで使っている改訂大熊版ワークブックは、東日本大震災復興支援財団「子どもサポート基金（2014 年度）」のお蔭で、きれいな印刷・装丁で子どもさん達に提供できています。感情に気づき、その適切な表現の仕方を学ぶスマイルタイムです。

子どもさん達もファシリテーターの方々も仕事やさまざまな都合で会津若松から転居し、人数が減っていることを今年の 2 月号でお伝えしました。ファシリテーターの不足を補って下さったのは、会津若松市の方です。今年初めて、大熊町民と地元会津若松市民の“共同”が実現しました。なんと、心強いことでしょうか！お互いの街の特徴を情報交換しながら、自分の過ごしてきた街を見直しているようでした。

ファシリテーターの皆さんは、想定外の行動を示す子どもさん達に「エネルギーを吸い取られたー！」と言いつつ、スマイルタイム終了後も笑顔が絶えません。本音で向き合う時間は私たちに満足感を与えてくれます。水曜日の午後 45 分間の短い時間ですが、ファシリテーターにとっても学びの時となっているようです。「わが子にこんなに深く考えて向き合ったことがなかった」とおっしゃった方もいます。[子育ては終わりのない学びのプロセス]とカナダでは言います。子どもが何歳になっても私たちは子どもから学びを得ます。私自身も成人した我が子に心を鍛えられています。

ファシリテーターの皆さんがお忙しい中時間を作り、準備と実践とに力を注いでくださることでスマイルタイムは実施できています。お互いに研鑽し合いながら、少しでも豊かな時を紡いでいきたいと考えています。



SLワークブックの「ジャーナル」↓



「夢フリマ」一地域交流の場



この 4 月の事務所移転を機に、地域貢献の一つとして、北区の NPO 法人 東京都北区子ども感動コミュニティ機構（通称：COCO 代表 安藤 昇作 様）の活動に会場を提供しています。「夢フリマ」は、近隣に子ども服のお店がない不便さを解消すべく、子育て中の親支援の一環で始めた[子ども服のリサイクルショップ]です。13 年間の育ち愛ほっと館での活動の場を本会事務所に移しました。

ご利用者の方たちの声を寄せて頂きました。服を購入するだけでなく、子育て中の親やスタッフの方たちと話すのが楽しみのになっているようです。

